

旧約聖書の中の祈り③

熊本聖書フォーラム
2020年4月12日

1

祈りの内容

- 大半は、とりなしの祈り
- しばしば、嘆願
- 神に感謝をささげる、神をほめたたえる
- 特別な状況の中で神のみこころを尋ねる

2

祈りに伴うこと、祈りの基盤

- 時として、罪の告白を伴う
- 時として、神の約束に基づく

3

祈る人の立場との関係

- 祭司は、イスラエル民族のために祝福を祈る
- 指導者は、民族全体のために祈る
 - 士師・預言者 サムエル
 - 王 ソロモン
 - 祭司で学者 エズラ

4

祈りに付随する行動

- 泣く
- 断食する
- 荒布を着る
- 灰をかぶる

5

祈るときのさまざまな姿勢

- 立つ
- ひざまずく
- 両手を上に伸ばす
- エルサレムの方角を向く（神殿の方を向く）
- 動物の犠牲を前に置いて祈る
- 寝室で横たわる（そのとき、仰向けに天井の方を見る、あるいは人目を避けて壁の方に横向きになる）

6

祈る習慣

- ダニエルは日に三度、時間を決めて祈った
- 特定の時刻に祈る定めは、ない
- 一日の中で、自分で時間を決めて、祈る習慣を
- 神との霊的な交わりを通して、祝福を受ける

7

祈りは義務ではない、祈祷文もない

- モーセの律法に、祈りの義務なし
- 旧約聖書の中に、あらかじめ書かれた祈祷文なし
- 祈ることばは、自然と沸き起こってくるもの
 - 第一に、自分の必要を自覚する
 - 第二に、神にはその必要に応じる力があると認める
 - この二つを満たす人から、自ずと湧き上がるのが祈り

8

祈る目的

- 神による導きを求める
- 神のよる癒しを求める
- 神のさばきを免れる、あるいは止める
- 神に自分の個人的な望みや必要を求める
- 特別な状況のもとで神に守りを求める

9

21番から25番の祈り

- 21.ダビデ契約 I 歴17：16～27 特に25節
 22.神殿奉献 II 歴6：12～7：3
 ・特に40～42節、7：1
 23.神殿受容 II 歴7：11～22
 ・特に12節、14～15節
 24.民の罪 II 歴30：17～20 特に18節
 25.祭司の祈り II 歴30：23～27 特に27節

10

26番から30番の祈り

- 26.危機のときの祈り II 歴32：20～23 特に20節
 27.癒しを求める祈り II 歴32：24
 28.マナセ王、王位回復を求めて II 歴30：10～13
 29.マナセ王の先の祈りに関して II 歴33：18～19
 30.王の長寿を祈る エズラ6：10

11